

通し番号	3712
------	------

分類番号	12-24-13-02
------	-------------

心止まり性露地トマト「なつのこま」の調理用としての生育特性と栽培法	
<p>[要約] 心止まり性露地トマト「なつのこま」の調理用としての適作期は2～3月は種で7～9月収穫である。無整枝放任栽培でよいが、着果負担の増大期が梅雨に重なるので重なった茎葉を広げる等、草勢を落とさぬように管理する。ほ場貯蔵性が高いため収穫初期は週1回収穫とし、ある程度赤熟果が揃ったら一斉収穫を行うと省力的である。</p>	
神奈川県農業総合研究所・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい] 最近、加熱調理用トマトに対するニーズが高まっており、農水省野菜・茶試は調理適性を持つ品種「なつのこま」を育成している。そこで、本品種を転換畑で省力的な栽培が可能な果菜類として一般消費者向けに栽培する場合の生育特性を明らかにし、栽培法を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1 は種期は2月中旬～3月中旬が適期である。は種期が早いほど多収となり、2月は種における総収量は7～8kg/株である(図1)。
- 2 栽植密度を畦幅160cm×株間40cm(156株/a)として、緩効性肥料をN-P₂O₅-K₂O:2.5-2.5-2.5kg/a程度施用し全面マルチ栽培とする(表1,3)。
- 3 本品種は心止まり型で一斉に分枝に着果するため、6月中旬以降、着果負担が増大し、茎葉の生長が鈍化する。このため、匍匐した側枝が下位葉を遮蔽しないよう配置する等の管理に努める。
- 4 無整枝放任栽培で十分な生育が得られるが、梅雨対策として上部側枝を短支柱で誘引すると受光体勢が良くなり若干の増収となるほか、地際部の果実腐敗も減少する(図1)。
- 5 収穫は、週一回程度の逐次収穫のほか、株全体の果実の熟度がある程度進んだ段階では手ぶるいによる一斉収穫を行うと省力的である(表2)。果実のほ場貯蔵性が高いため、需要を見ながら収穫時期、収穫方法を調節することが可能である。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本成績は「なつのこま」を、直売や地元出荷など一般消費者向けに数a程度の規模で栽培する場合に適用する。
- 2 果実は土に触れると腐敗しやすいため、全面マルチ栽培とする。
- 3 BT剤などを活用してオオタバコガの初期防除を行う。
- 4 本品種は、果肉が硬くゼリー質が少ないため、ごく一部でカット野菜としての利用事例があるものの、生食用一般用途には食味の点で不適である。

[具体的データ]

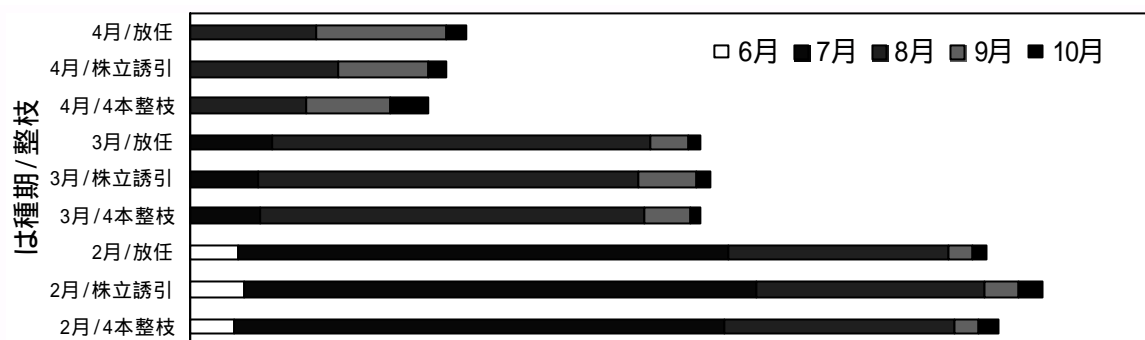


図1 総収量の月別推移

は種期 1998年2月10日、3月20日、4月30日(kg/株)

誘引法 放任 整枝せず放任

株立誘引 4本整枝とした上、下2本を地這、2本を畦に平行な誘引線(高さ50cm)へ誘引

4本整枝 主枝とその直下の側枝3本を残し他の側枝を摘除

表1 施肥量が収量におよぼす影響

N (kg/a)	良果		小果		奇形, 障害等		合計	
	(100果/a)	(kg/a)	(100果/a)	(kg/a)	(100果/a)	(kg/a)	(100果/a)	(kg/a)
2.5	114	502	67	164	14	18	194	684
2.0	83	402	65	165	9	11	156	577
1.5	73	341	42	101	7	10	121	452

1999年3月2日は種, 栽植密度 160 × 40cm(156株/a)

表2 収穫方法が収量および作業時間におよぼす影響

	可販果合計		未熟果		作業時間(時:分/a)				合計
	(100個/a)	(kg/a)	(100個/a)	(kg/a)	収穫	運搬	選別	落果収穫	
一斉選択収穫	176	694	0	0	9:01	0:14	0:00	-	9:15
手ぶるい収穫	203	745	15	22	0:33	1:14	5:26	0:43	7:57
逐次収穫	192	657	0	0	10:53	0:13	4:30	-	15:37

は種期 1999年3月2日

一斉選択収穫:7月28日に株から可販果のみを選んで収穫した。

手ぶるい収穫:7月28日に地際部から株を刈り取り、ほ場枕地で果実を振るい落とした。

逐次収穫:7月7日~28日の間に4回、可販果のみを選んで収穫した。

表3 栽植密度が収量に及ぼす影響

	株間(cm)				
	40	60	80	100	120
個数(個/a)	21211	14844	16109	11570	12102
収量(kg/a)	923	651	710	523	529
上物割合(%)	70.1	71.4	71.6	74.6	66.9
平均1個重(g)	43.5	43.9	44.1	45.2	43.7

[資料名] 平成12年度試験研究成績書(野菜)

[研究課題名] 田畑輪換による耕地の高度利用技術の開発

[研究期間] 平成12年度(平成10年~12年)

[研究者担当者] 佐藤達雄